

令和元年度 第4回久留米市子ども・子育て会議

日 時：令和2年2月18日（火）15：00 -

場 所：久留米市職員会館メルクス2階

出席者：椎山委員、中山委員、池田委員、宮里委員、野村委員（早川委員代理）、藤田委員、関委員、井上委員、村井委員、豊福委員、松尾委員、吉岡委員

- 1 開会
- 2 議事

（1）第2期くるめ子どもの笑顔プランについて

① パブリック・コメントの実施結果について

<資料1「第2期くるめ子どもの笑顔プラン（素案）に対する意見募集」の結果について事務局説明>

○椎山会長

パブリックコメントのご説明がありました。ご意見やご質問があればお願いします。

※意見なし

② 第2期くるめ子どもの笑顔プラン最終案について

<資料2「第2期くるめ子どもの笑顔プラン（案）」について事務局説明>

○椎山会長

素案の修正箇所についてご説明がありました。ご意見やご質問があればお願いします。

※意見なし

（2）答申案について

<資料3「答申案について」>

○椎山会長

本日の会議を含めまして、今年度計4回の子ども・子育て会議を開催しました。委員の皆様におかれましては、お忙しい時間の中ご参加いただき、また久留米市の子ども・子育て支援全般にわたる活発なご議論、貴重なご意見を頂きまして感謝申し上げます。今後の予定では、子ども・子育て会議として久留米市に答申を予定しており、計画案に意見を添えて答申したいと思います。答申にあたっては、これまでの審議を踏まえ4つの意見を添えてはどうかと考えております。1つめに、社会全体で子ども・子育てを支援するため、保護者や子どもたちを取り巻く状況を把握しながら、久留米市の子育て支援を担っている豊富な社会資源と協働・連携し、様々な事業の展開を図ること。2つめに、障害児や外国人の支援の充実、企業と連携した両立支援の取り組み、身近に相談できる場所の確保など、多様なニーズに対応できるような体制づくりを努めること。3つめに、待機児童の解消、子育て支援の充実を図るための保育士・幼稚園教諭・支援者等の人材の確保、資質の向上に努めること。4つめに、計画の推進にあたっては、計画に記載されている施策について確実に実現できるよう、実効性のある取り組みを進めること。また、進捗状況につい

ては、本会議に報告を行い、必要に応じて施策の見直し等を行うこと。以上の 4 つの追加、特記事項を入れてはどうかということをご提案させていただきます。委員の皆様から、もっと入れてほしいということがありましたらお願いします。ここ 5 年から 10 年の間は、3 つめを強く訴えたいところですが、なかなか有効な手立てがないのも現実の問題としてあります。

○村井委員

国では 4 月から多胎育児に予算がつくようになりますので、2 つめに障害児、外国人の並びに多胎児も入れて頂ければと思います。愛知県豊田市で三つ子が亡くなる事件があって、国も多胎育児の支援に予算をつける動きになっています。久留米市は既に多胎育児には十分支援をして頂いているので、是非ここに追加して頂けると有難いです。

○椎山会長

では、「多胎児や障害児、外国人の支援の充実」を踏まえた文面にします。その他に意見がないようでしたら、今の修正については私に一任して頂ければと思います。

(3) 特定地域型保育事業の利用定員について

<資料 4、資料 4 参考「特定地域型保育事業の利用定員について」事務局説明>

○椎山会長

特定地域型保育事業の利用定員について、認可自体は社会福祉審議会で認可されていますが、利用定員については子ども・子育て会議で諮ってから決定することになります。説明がありました通り、北部は待機児童が発生する地域ですので、それが少しでも緩和されるようになるので問題はないと思います。今までは小規模型でしたが、今後は保育所型ということで定員が 39 名となっております。今までの小規模型よりも地域の受け入れ枠も多くなりますし、北部地域の待機児童の緩和につながればと思います。委員の皆様からご意見がなければ、39 名で承認するというご意見をお願いします。

※意見なし

3 報告

(1) 子どもの貧困対策推進計画の素案について

<資料「子どもの貧困対策推進計画（素案）」事務局説明>

○椎山会長

ご意見、ご質問がありましたらお願いします。久留米市内の小中高にはスクールソーシャルワーカーはどのくらい配置されていますか。

○事務局

スクールソーシャルワーカーは、教育委員会の学校教育課に 6 人配置されています。小学校、中学校、市立高校からの要請に基づいて学校に出向き、ケースにあたっています。

○椎山会長

今回、スクールソーシャルワーカーを増やしていくということですか。

○事務局

その充実も対策の一つになると考えています。

○池田委員

今回、3人目の子どもですが、初めて小学校の入学説明会に行きました。西国分小学校はマンモス校ですので、たくさんの方が来られていました。上のお子さんの説明会に、下の子が双子といった方や障害のある子どもさんを抱えながら来られたりと色々なお母さん達が来られていました。小さい子を1人連れてくるだけでも大変な中、2〜3人連れてきている状況を見て、私もお手伝いしたりしましたが、最後に地域の支援の方が「私達に関わりますので、よろしくお願いします」といったご挨拶をされました。それはすごく良かったのですが、せっかくコミュニケーションをとれる場でもあると思うので、その時に地域の方達が見守ったり、手助けをしてあげれば、いきなり貧困問題から入るのではなく、自然と温かい支援が周りにあるとわかれると思います。安武の取り組みをみると、授業参観の時に地域のおじいちゃん、おばあちゃんが子どもたちを預かってくれたり、入学式の前に地域のお母さん達が不安がないように話し合う場が設けられています。西国分と安武では規模が違うので、安武が行っていることをそのまま西国分で反映できるわけではないと思いますが、地域の人が前に立って、「私達が何かやります、頼ってください」というだけでは、お母さん達はいっぱい聞いて耳にも入っていません。同じようにはできないと思いますが、マンモス校だから実施できないということではなく、違うやり方があるのではないかと思います。せっかく、全員が出てくるチャンス、機会があるので、出てこなくなってから対策するのではなく、出てきた時をどう利用していくのかを考えていくことがすごく大事なのかなと思います。何かの機会に合わせてコミュニケーションをとって、色々な人たちが手助けしていることを知っていただく機会が必要だと思います。

○事務局

貧困対策に限らず、少しずつ地域とのつながりが薄れてきている状況がありますので、地域のつながりを今後つくっていかねければと思います。どうやってつくっていくのかということ、今後計画を実行していく中で地域の皆様と一緒にやっていく必要があると思っていますが、どうやっていくかというのは難しいところもありますし、強制してできるものでもないと思っています。例えば、こういう取組をこの校区でされているということを紹介したり、どういったことができるのかということ投げかけたり、地域の子育て中の方達が必然的に集まる場の活用など、色々な機会でお伝えしたり、一緒に考えていきたいと思っています。

○吉岡委員

国の計画に基づいてということはわかりましたが、やはり教育の支援では親自体が中学校しか出てなかったりとか、高校中退されたりとか、自分の学び場なくて子どもの学びに対して意欲がなかったりということもあると思うので、保護者も含めた教育支援を入れてほしいです。また、今後は外国の方が増えることは確実だと思うので、大人の学びの場が貧困対策にも重要と考えますので、そういった視点も入れてほしいと思います。

○村井委員

久留米市にはスクールソーシャルワーカーが 6 人しかおらず、スクールソーシャルワーカーの活用の仕方がわかっていない校長先生もいます。実際にスクールソーシャルワーカーがどんなことをするのか、カウンセラーとの違いが保護者の人達にもわかっていません。たった 6 人で久留米市全部の子どものソーシャルワークをするのはなかなか難しく、本当に必要な人に必要な支援が届いていないと思います。特に久留米市は任期付の職員が対応しているので、断面的になってしまい、支援を末永くしてあげられません。どうしても福祉は申請主義なので、向こうから手を挙げてくれないとサービスにつながらなかったり、一市民だとスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの違いがわからないところがあります。スクールカウンセラーにはこんなことができるのか、スクールソーシャルワーカーはいつも来てくれるわけではないですし、例えば急に夫が失業した時にどうやって相談するのかということもわからないので、入学の時にスクールカウンセラーはこんなことをやってくれる、スクールソーシャルワーカーはこんなことをやってくれるといった違いが分かるような資料があってもいいと思います。

悩みがある時に週に 1 回行けば相談ができるように、小学校には保健の先生以外に毎日 1 人はスクールカウンセラーが配置されることや、スクールソーシャルワーカーもいじめの対策も仕事であると考え、学校に養護教諭並みに配置して頂きたいです。予算的には無理だと思いますが、小学校に 1 人、中学校に 1 人くらいはいてほしいという希望があります。みんなにスクールソーシャルワーカーは何の仕事をしてるのかと聞かれることが多いので、貧困対策と一緒にスクールソーシャルワーカーの役割も啓発して頂き、広めて頂けると有難いと思います。

○椎山会長

ちなみに、スクールカウンセラーは各学校に 1 人いるのでしょうか。それとも、各学校をまわっているのでしょうか。

○事務局

中学校の方に週に 1 回、小学校の方に月に 1 回程度まわっています。相談の予約でいっぱいになっている状況です。

○椎山会長

幼稚園、保育園から発達課題が見えてきて、どのように保護者に対応するかは、各園で違いますし、自分たちで研修を行っているのが現状です。実際に、発達課題を持った子が増えています。ある地域の園に行った時、発表会の練習をしていましたが、40 人程度の園児のうち、4~5 人は発達課題のある子がみられました。その中で幼稚園の先生方は奮闘しており、日頃から、そこに働きかけがあれば変わるのかなと思います。貧困とは全然関係ないとは言いきれない部分もありますので、一歩国よりも先に出た取り組みがあるといい気がします。大学にもスクールカウンセラーとつながらずに、大学まで入ってきた生徒もいます。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの増員は必要ではないかと痛切に感じています。

○宮里委員

質問になりますが、貧困層やひとり親の相対的貧困は外から見えにくいということは、本人たちもわかりにくいのではないかと思うのですが、自分たちが貧困層だと気づいていない方にはどうやってアプローチされているのでしょうか。

○事務局

貧困だからというよりも、アプローチする時は何らかの困りごとを抱えているご家庭が子育て支援拠点に来ていたり、あるいは幼稚園、保育所で気づかれたりして、困りごとを抱えられている点で最初に支援が必要です。そこから、実は家庭の貧困の課題があるといった状況もあります。生活困窮で生活が成り立たないことで生活保護を受けている、あるいは生活困窮の自立支援センターの相談など、色んなところでご家庭のことを把握する中で、貧困課題に入っていくのが今の状況です。

○宮里委員

新しい靴や服を減らしたというのは、例えば周りで使わなくなった物を集めて、配るという機会があればと思います。そういったところを作るか、そういうところがあることを知らせるだけでも、減ったりするのかなと思いました。所有物は周りがみんな持っている状況で、レンタルもうまく作ればいいのかなどと思いました。体験はどうしても親がいないと子どもたちだけで遊ばせるのは難しいので、イベントに対して保育士を派遣して頂くとかあればまた変わるのかなと思いました。

○事務局

貧困世帯だけでなく、困りごとを抱えているご家庭は、地域の中でもつながりを持たなかったり、支援を拒まれたりするケースもあります。近所づきあいもなかったり、相談相手もいなかったりする状況があるので、まずは少しでもつながりを作って頂いて、子どもたちが地域の方々と交流することで家庭だけではなく、色んな大人がいる、社会とのつながり、色んな体験ができるような仕組みを作ることが必要ではないかと思います。具体的にどういうことができるかは、今後庁内でも考えていきたいと思っています。

○池田委員

西国分はスクールカウンセラーの先生が、子どもたちの状況をみてヒアリングをしながらご飯を食べていないことなどが分かれば家庭訪問をしていきますが、信頼関係を結ばないと、ドアを開けてくれない状況があって、担当の方が何回も何回も足を運ばれています。フードバンクと連携しながら週に1~2回、運ばれることをしていますが、2~3人でも信頼関係を結ばないとなかなか受け取ってもらえないし、家庭に入ることは難しいので、個人に依存しきっている部分があるという話を聞いています。社会全体でどうケアをしていくのか難しいと思いながらも、ひっ迫していくし、その方が病気になったり倒れたりすれば滞ってしまうことなので、切実な問題だなと思います。

○事務局

非常に難しいことですので、どうにかしていかないといけないと思いますが、どういうやり方があるのか、なかなか見つかっていません。

○池田委員

明石市がオムツを提供しているように、困っていて欲している物を届けるというのは、アプローチの仕方としてはいい手段ではないかと思います。

○事務局

自分の家庭にメリットになるとか、してほしいことをできればドアを開けてくれたりもしますし、それからどのようにつなげていくのかだと思います。

○池田委員

この間、久留米市だけでは足りず、福岡市のフードバンクまで取りに行ったと聞きました。

○井上委員

先日、くるるんの方に離乳食のことを相談したいけれども、くるるんまで出て行くことが苦手だったり、子どもの状況によってタイミングが合わなくて相談会に行けませんというようなメール相談がきました。支援のあり方として、くるるんでは来る人を待っている状況ですが、これからは、家庭に入っていくようなボランティア活動、派遣型のボランティアも必要になってくるのかなと思いました。ホームスタートを自治体が取り組むという方法もあります。本当は専門家が良いのしょうけれども、専門家が専門家になる時間もかかります。そういう時に民間として少しずつ取り組んでいくなれば、離乳食の話で良ければ、まずスタートとして、信頼関係をつくって次のところにつなげていくというようなことも考えられるのかなと、今の話をお聞きして思いました。以前からホームスタートに興味と関心はありました。笑顔プランの支援者の資質向上も含めて、そういうこともこれから先、考えていってはどうかと思います。

○池田委員

産後うつを取り組みをさせて頂いていても、派遣は必要と感じています。実際、足を運んで下さる方は元気になってきている方達で、家庭に入ってしまったからが大変なんです。買い物や病院に足を運ぶことができない方もいるので、経験者で気持ちがわかってあげられる方が、一緒に寄り添っていくことをこれからどのように構築していったらいいのかと考えていて、一緒にできると良いなと思います。障害者や高齢者には支援サービスがあるので、それも応用できると思うので、知恵を頂きたいと思っています。

○事務局

派遣型、アウトリーチ型になると人の確保が必要などの課題もあるため、こういったことができるのかはご意見を頂きながら進めていきたいと思っています。

○吉岡委員

3月5日に説明会があると言われましたが、場所と時間が決まっていたら教えてください。

○事務局

15時半に市役所の13階会議室で行う予定です。

4 その他

5 閉会

以上